

3. 2021 年度の混雑対策の取組み

I. 駐車マスの整備

2021 年度、全国 44 箇所の SA・PA において、新たに約 600 台の駐車マスの整備をおこなう予定です。

2020 年度の拡充数(実績)および 2021 年度の拡充数(予定)

	2020 年度実績 49 箇所 (詳細は別紙 1)			2021 年度予定 44 箇所 (詳細は別紙 2)		
	工事前	工事後	増減	工事前	工事後	増減
普通車マス数 (台) ^{※1}	4,209 (4,765)	3,993 (5,227)	-216 (+462)	3,085 (3,933)	2,742 (4,470)	-343 (+537)
大型車マス数 (台) ^{※2}	2,365	3,128	+763	2,145	3,084	+939
NEXCO 3 社 合計	6,574	7,121	+547	5,230	5,826	+596

※1:()は兼用マスを含んだ台数(兼用マス 1 台あたり普通車 2 台分としてカウント)

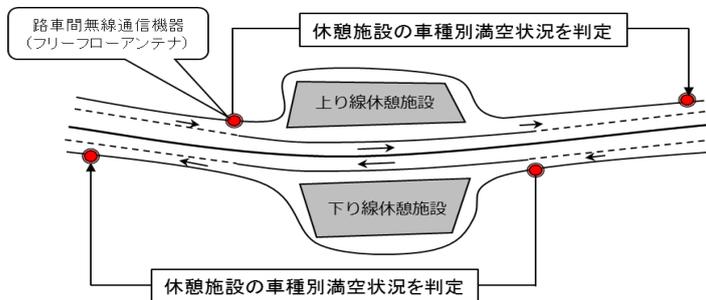
※2:兼用マスを含んだ大型車マス数

注)表中の駐車マス数は現時点での計画であり、今後具体的な設計・工事を進める中で増減する場合があります。
注)兼用マスを増やすことで、普通車が多くなる時間帯でも混雑が緩和されるようにしています。

II. さらなる駐車場の利用平準化の取組み

E1 東名や E1A 新東名の一部の休憩施設では、ETC を活用した路車間無線通信機器(フリーフローアンテナ)により、駐車場の車種別満空情報をリアルタイムで把握し、情報板や WEB サイトで駐車場の混雑状況をきめ細かく提供することで、駐車場の利用平準化を図ってまいりました。

NEXCO 中日本では 2021 年度から、E1 東名、E1A 新東名のほか、E19・20 中央道、E1 名神、E1A 新名神、E1A 伊勢湾岸道や E23 東名阪道にも同様の取組みを拡大していきます。



路車間無線通信機器による休憩施設の車種別満空状況



路車間無線通信機器
(フリーフローアンテナ)

■情報板での情報提供



■ETC2.0 対応カーナビでの情報提供



■WEB サイトでの情報提供

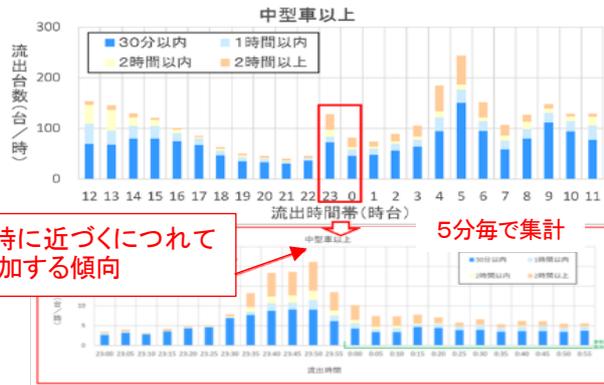


路車間無線通信機器を活用したきめ細やかな車種別満空情報の把握と情報提供のイメージ

Ⅲ. その他の検討項目

ア) 深夜割引の影響に関する検討

深夜割引は、一般道の沿道環境改善を目的に、深夜に利用する車両を対象として2004年11月から導入されており、一般道の夜間交通量の減少による騒音環境の改善などの効果が確認されています。一方で、深夜割引が適用される0時前に、首都圏に近い休憩施設での深夜割引待ち車両による長時間駐車や、本線料金所などでの割引待ちの車両の滞留などの課題が発生しています。今後、駐車エリアの混雑緩和のため、大型車マスの適切な利用を呼びかけるとともに、国土幹線道路部会での割引適用条件の見直しなどの議論を踏まえ、関係機関と連携して検討していきます。



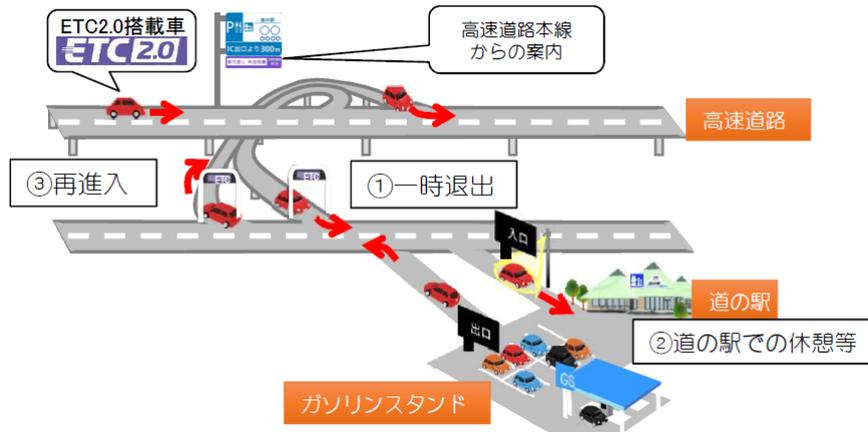
第45回国土幹線道路部会(2020年11月27日)資料3より抜粋
E1 東名 海老名 SA(上り)の流出台数



第45回国土幹線道路部会(2020年11月27日)資料3より抜粋
E1 東名 海老名 SA(上り)の深夜の駐車状況

イ) 一時退出の拡大による休憩機会確保に向けた検討

高速道路からの一時退出を可能とする「賢い料金」の実施については、国土交通省が2017年2月から、休憩施設同士の間隔が概ね25km以上離れている区間(100箇所)を半減することを目指し、ETC2.0搭載車両を対象に、全国23箇所の道の駅で実証実験を実施しています。2020年3月からは「時間が短いため十分な休憩ができない」などの意見を踏まえ、一時退出可能な時間をこれまでの1時間から3時間へ引き上げて、引き続き実証実験をおこなっています。今後、大型車の休憩機会の確保を含めた良好な運転環境の確保のため、対象箇所の拡大に向けて国土交通省と連携して検討していきます。



高速道路からの一時退出を可能とする「賢い料金」の実施について(2020年3月13日)より抜粋
一時退出のイメージ